

マタイの福音書 6 章 9-13 節

主の祈り

6:9 だから、こう祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように。
6:10 御国が来ますように。みこころが天で行われるように地でも行われますように。
6:11 私たちの日ごとの糧をきょうもお与えください。
6:12 私たちの負いめをお赦してください。私たちも、私たちに負いめのある人たちを赦しました。
6:13 私たちを試みに会わせないで、悪からお救いください。』〔国と力と栄えは、とこしえにあなたのものだからです。アーメン。〕

はじめに

ルカ 11:1 「さて、イエスはある所で祈っておられた。その祈りが終わると、弟子のひとりが、イエスに言った。「主よ。ヨハネが弟子たちに教えたように、私たちにも祈りを教えてください。」
こうして一人の弟子に頼まれてイエス様は祈り方を教えました。もちろん、これは手引きとしての祈りを教えられたのであって、この言葉をそのまま繰り返すだけで祈りなさいと言う意味ではありません。

マタイ 6:7-8 「また、祈るとき、異邦人のように同じことばを、ただくり返してはいけません。彼らはことば数が多ければ聞かれると思っているのです。6:8 だから、彼らのまねをしてはいけません。あなたがたの父なる神は、あなたがたがお願いする先に、あなたがたに必要なものを知っておられるからです。」

自分の祈りの一部として使ってはいけないと言う意味ではありませんが、これだけで祈りが終わればいいと言う意味でもありません。心を込めて考えながら、祈りなさいと教えておられます。

ローマ人 8:26-27 「御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、どのように祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなしてくださいます。

8:27 人間の心を探り窮める方は、御霊の思いが何かをよく知っておられます。なぜなら、御霊は、神のみこころに従って、聖徒のためにとりなしをしてくださるからです。」

祈る時に、聖霊の助けと導きもあるから、自由に自分の言葉で祈るのが大切ですが、主の祈りによってイエス様は手引きを与えて下さっているのです。

1. 父なる神様の変わらない愛

マタイ 6:9 「だから、こう祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように。』
これはイエス様の全ての教えの中で最も根本的な教えです。神様は私達のお父さんとして、私たちをご自分の子どもとして愛し、責任を持って面倒を見て下さいます。

マタイ 6:8 「だから、彼らのまねをしてはいけません。あなたがたの父なる神は、あなたがたがお願いする先に、あなたがたに必要なものを知っておられるからです。」

それなら、何の為に祈らなければならないのでしょうか？ 祈る事の最大の目的は、欲しい物を貰うためではなくて、親しい交わりによって父なる神様の御心と一つになる事です。

全ての必要を知っておられると言うのは、全面的に面倒を見て下さるのが当然の事だと言う意味です。そうでなければ、愛のない無責任な父親に過ぎません。イエス様は父なる神様が当然の事として全面的に私たちの面倒を見て下さる事を何回も繰り返して教えました。

ルカ 11:11-13 「あなたがたの中で、子どもが魚を下さいと言うときに、魚の代わりに蛇を与えるような父親が、いったいいるのでしょうか。11:12 卵を下さいと言うのに、だれが、さそりを与えるでしょう。」

11:13 してみると、あなたがたも、悪い者ではあっても、自分の子どもには良い物を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、天の父が、求める人たちに、どうして聖霊を下さないことがありましょう。」

これは主の祈りを教えた後、続きとして説明している箇所です。なぜ、イエス様はよい物を当然に与えられるのに、最後に求める人に聖霊を与えられる事も含まれているかと言いますと、聖霊は最高の天からの贈り物だからです。天の王座から、最高の贈り物を送って下さっているのですから、当然、他の必要な物をも与えられます。父なる神様はあなたがたを祝福したくて仕方がないです。ローマ人**8:31-32**「では、これらのことからどう言えるでしょう。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。**8:32** 私たちすべてのために、ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された方が、どうして、御子といっしょにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがありましょう。」

聖霊を与える為にも御子イエス様の命がかかったのです。イエス様が十字架で死んで天国に帰られるまで聖霊は与えられていなかったと聖書に書いてあります。そこまで、天の父なる神様は私達にどうしても、全ての祝福を与えなかったのです。でもそれを代価なしでは出来なかったので、最大の代価を払ってでも、祝福を与えられました。ですから御子イエスの命と共に全てのものを私達に恵んで下さらないことはあり得ないでしょう、と言っているのです。

31節は与えられるだけではなくて、いつも私達の味方として全面的に守って下さる事も当然の事だと言っています。その続きの最後まで読めば父なる神様は何があっても、変わらない愛を持って味方として共にいてくださることが分かります。

ローマ人**8:39**「高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。」

イエス様はそばにいただけではなくて、最強の味方として守る為にいつも共にいるから、圧倒的な勝利者として全ての困難を乗り越えさせて下さることを確信している、と書いてあります。最終的に負けられないから、将来は保証されています。父なる神様だからです。

2. 天にいます父なる神様 (9節)

神様の住む場所を指しているだけではなくて、天国の主である事を教えています。神が全ての主権を持っておられるという意味です。イエス様自身の祈り方の事例を見るとそれがはっきり分かります。

ルカ**10:21**「ちょうどこのとき、イエスは、聖霊によって喜びにあふれて言われた。「天地の主であられる父よ。あなたをほめたたえます。これらのことを、賢い者や知恵のある者には隠して、幼子たちに現わしてくださいました。そうです、父よ。これがみこころにかなったことでした。」

「天にいます私達の父よ。」と祈るように教えた意味は、祈る時にまずは、神が変わらない愛を持っておられる父なる神様と同時に、天と地の全ての主である事を覚えなさいと教えているのです。

2週間前にフィラデルフィアにある教会にイエス様が送った手紙の励ます言葉を一緒にみましたから、少し繰り返しになりますが、簡単にまとめていましょう。神は私達の生活の中の事情の上に主権を持っておられますから、誰も閉じる事が出来ない門を開いて下います。その導きによって私たちは行き詰まりが不可能な人生を与えられています。神は敵対する者の上にも主権を持っておられるから、私達に対する全ての武器と訴える舌を成功させないで、逆にそれを祝福に変えて下さいます。ですから、最強の味方としていつも共にいて守って下さるのです。私達の困難や試練の上に主権を持っておられるから、誰がどんな試練に会っても、その試練の期間も支配して下さっています。耐えられない試練に負わせるような事はしないと約束して下さっています。祈りに関連する神様の主権について言えば、どんなに小さい信仰でも、不可能な事でも可能にして下さる事です。祈っている人にとって最善であるなら、全能の力を働かせてそれを可能にして下さいます。

2週間前の説教で、日本に入国出来るように祈っていた時に、

黙示録**3:8**「見よ、誰も閉じる事が出来ない門をあなたの前に開いておいた。」の御言葉を与えられたことをお話しました。それから**17**年経った時に、**2001年9月11日**にアメリカの同時多発テロ事件があった後それが大きく試されました。ある週刊誌のデマの記事によって私は突然、国外退去

命令を出されてしまいました。2週間以内に日本から出て行きなさいと言われたのです。その電話がかかって来る2分程前に私はその時住んでいた教会で朝の祈りをしていました。祈りの中で、ある聖書の言葉が突然私の心に、とても強く浮かんで来て、神様が私の心にそれを通して語りかけているとはっきり分かりました。

使徒の働き27:25 「ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりにすると、私は神によって信じています。」

神様は、何についてこれを語っているのだろうかと2分程考えている内に電話がかかって来たのです。それが入国管理局からの国外退去命令の電話でした。もちろん、その瞬間に神様は何について語りかけて下さっているかがよくわかりました。「全て私に告げられた通りになると私は神によって信じています。」つまり、17年前にも、私に神によって告げられたのは

黙示録3:8 「誰も閉じる事が出来ない門をあなたの前に開きました」と言う事でしたから、何も心配しなくてもいいから、信じて任せなさいと改めて言われていたのです。私は刑務所の教誨師(きょうかいし)を何年もしていたし、その所長さんも含めて色々な人が嘆願書を書いて退去命令の撤回を求めて下さいましたが、いずれも不可能と言われました。それでも、その2週間の期間が経たない内に、東京から電話がかかって来ました。そしてその電話で、法務大臣が撤回して下さいただけではなくて、在留特別許可を与えて下さったと言われました。どのようにしてそうなったかを簡単に説明しましょう。その2年前に、私は特別伝道集会を頼まれ、その結果としてある夫婦と二人の娘が皆導かれて救われました。私は個人的に知りませんでしたが、救われたご主人のお父さんは国会議員でした。私が国外退去命令を出された時彼が聞いた時に、直接法務大臣に私の事を説明して下さい、何回も不可能だと繰り返して言われた事が、逆に私の立場を更に強める結果になりました。神様はこのことが起きる2年も前から、既に解決を準備していたのです。イエス様が教えて下さった通りで、神には不可能な事はありません。祈る時にあなたがたの父なる神様が天と地の主である事を覚えて何でも祈りなさいと言う事です。しかも、イエス様は死者からよみがえられて、天国に帰る前に最後に「天においても、地においても、全ての権威が私に与えられています。」と言われました。イエス様の名前で祈り、すべてを神の御前に捧げることができるのは、何と素晴らしい特権でしょう。

3. 御名が崇められますように。(9節)

感謝と賛美は神の栄光になります。

先程、1点目のポイントで見たイエス様の事例には、

ルカ10:21 「ちょうどこのとき、イエスは、聖霊によって喜びにあふれて言われた。「天地の主であられる父よ。あなたをほめたたえます。.....」

とあり、それから、すぐ感謝の祈りを捧げました。基本の中の基本ですが、イエス様の名前で祈る意味は、その名前を最後に付けるだけではありません。神様の栄光になる、神の子どもにふさわしい、御心に沿った祈りをするのが大切なのです。それでイエス様はこの順番を教えておられます。普段祈る時に自分の事を祈る前にイエス様と同じように先に感謝と賛美をしたら、もっと祈りやすくなります。イエス様が主の祈りを教える時に、この順番を言われたのは偶然ではありません。当然、誰でも祈りたくない時もあるし、祈る確信もなく、祈る気が全くない時もあります。それで、感謝と賛美をしているうちに信仰が湧いて来て、祈る気持ちが沸きあがって祈りやすくなるのです。それだけではなくて、自分の抱えている様々な問題の解決が、自分の事を祈る前に、感謝と賛美しているうちに見えて来る時もあるし、心に平安を与えられる事もあります。

ピリピ人4:6-7 「4:6 何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。

4:7 そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」

この箇所も、感謝の大切さを強調しています。もちろん、生きるか死ぬかの危機な時に、感謝も賛美もする余裕のない時があります。幸いにその瞬間的な心の叫びの祈りでも、聞かれます。

3月11日木曜日は、東日本大震災から10年を覚えてテレビやメディアが様々に取り上げていましたが、私と家族は26年前の阪神淡路大震災の時に神戸の中央区の下町に住んでいて、その近所でたくさんの方が亡くなりました。その中で神様は貴重な体験を与えて下さいました。私たちは5階建てのマンションの4階に住んでいたのですが、崩壊してもおかしくない激しい揺れの中でその瞬間に心の中で神様に向けて「神様、どこにおられるのですか」と叫びました。その瞬間にすぐに讃美歌の歌詞が心に浮かんで来たのです。その内容は完全にその時の必要に合っていたから、神様が語りかけて下さっているのが分かりました。先ほど読んだピリピ人4:7「人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」にある、まさにその平安で満たされたのです。この中でも、神様が共にいて全てを支配して下さいている確信で満たされ、それはここで自分も家族も皆で死んでも、何も怖くないと言う凄い平安でした。

詩編23:4「たとい、死の陰の谷を歩くことがあっても、私はわざわいを恐れませんが、あなたが私とともにおられますから...」

全くそのことば通りに経験させていただきました。

では聖書の実例の一つ見てみましょう。

使徒の働き16:25-27「真夜中ごろ、パウロとシラスが神に祈りつつ賛美の歌を歌っていると、ほかの囚人たちも聞き入っていた。16:26ところが突然、大地震が起こって、獄舎の土台が揺れ動き、たちまちとびらが全部あいて、みな鎖が解けてしまった。

16:27目をさました看守は、見ると、牢のとびらがあいているので、囚人たちが逃げってしまったものと思い、剣を抜いて自殺しようとした。」

ここから分かることは、感謝の祈りと賛美によって神様の力が働き、この世の事情に影響されない、人間の考えられないような平安が与えられるということです。

まとめ

絶対に、いつも主の祈りの順番に従って祈るという意味ではありませんが、普段の毎日の祈りの時にこの方が祈りやすくなります。自分の必要が後回しになりますが、自分の必要を先に祈る時、それ以外の事を祈れなくなってしまう事がよくあります。しかも、感謝と褒めたたえる祈りをしている内に自分の抱えている問題の解決が見えるようになる事もあるのです。イエス様はどんなに苦しくても、父なる神様の栄光を優先して祈っていました。来週それについてもっと見ようと思いますが、最後にもう一箇所聖句を見てみましょう。

ヨハネ12:27-28「今わたしの心は騒いでいる。何と言おうか。『父よ。この時からわたしをお救いください。』と言おうか。いや。このためにこそ、わたしはこの時に至ったのです。

28父よ。御名の栄光を現わしてください。」そのとき、天から声が聞こえた。「わたしは栄光をすでに現わしたし、またもう一度栄光を現わそう。」